

注意点1

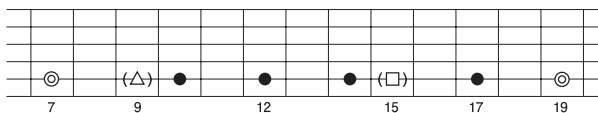
ロックとの相性バッチリの
マイナー・ペンタを覚えよ！

一般的に最もよく知られているペンタのポジション図は、“マイナー・ペンタトニック・スケール”のこと。ただし、コードやキーの設定によりさまざまな解釈があり、同じポジションのペンタでも名称は多種多様にあるのだ。今回は、文字数の関係であまり詳しく触れないので、このフレーズは前述の“マイナー・ペンタ”として解説しよう。ペンタトニック・スケールとは“5つの音階”という意味で、ナチュラル・マイナー・スケール（7つの音階）から2番目&6番目の2音を省いている音階だ（図1）。2つの音を抜くことにより、マイナーの“暗さ”がなくなり、良い意味での“土臭さ”が出てきて、ロックとの相性をより良いものになっている。ロックを語る上でペンタは外せないとい誰も口を揃えるのはこのためである。

図1 マイナー・ペンタトニック・スケール

Eナチュラル・マイナー・スケール

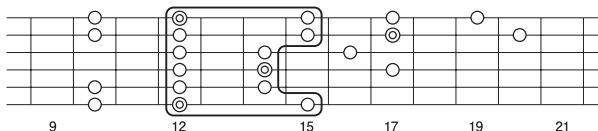
◎ ルート音=E △ 第2音=F# □ 第6音=C



※第2音と第6音が加わると Eナチュラル・マイナー・スケールとなる。

Eマイナー・ペンタトニック・スケール

◎ ルート音=E



ペンタトニックの基本形。必ず覚えよう。

注意点2

ザックのように豪快かつ
繊細にペンタを奏でるべし

このフレーズは、“E マイナー・ペンタトニック”で構成されている。1 & 2 小節目では、6弦12フレットから2音を1セットとして3セット分、弦を上昇したら、1回下降するというフィンガリング・パターンになっている。12フレットの押弦はすべて人差し指が担当するが、セーハするのではなく、1本ずつ押さえよう。さらに弦移動時に人差し指が隣接弦に軽く触れてミュートすることが大切だ。例えば4小節目1拍目では、人差し指で1弦17フレットを押弦すると同時に、指先で軽く2弦に触れてミュートしよう（写真③）。ミリ単位の押弦ポイントのズレが、プロと素人のノイズの差になってくるのだ！ またリズムが多少変化しているように感じる部分もあるので、16分をキープできるようにしよう。



2弦17fを人差し指で押弦。次の薬指を空中で待機させよう。



2弦20fを薬指で押さえる。弦移動の準備を忘れずに。



1弦17fを人差し指で押弦。少しだけ2弦に触れておくこと。



次の中指による押弦時でも、人差し指は2弦に触れておこう。

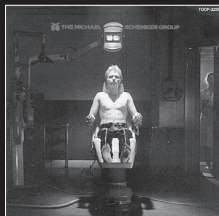
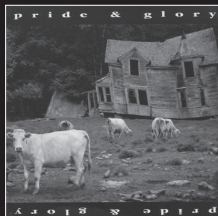
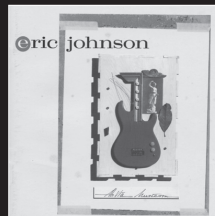
～コラム6～

地獄の戯れ言

ここでは、ペンタの使い手と言える3人の熱いロック・ギタリストの名作を紹介しよう。まずは、マイケル・シェンカー率いるMSGの1stアルバム。非常にメロディアスなペンタ・フレーズが満載だ。次は、ペンタを最もパワフルに演奏していると言っても過言ではないザック・ワイルドによるサザン・ロック・バンド、プライド&グローリーの1stアルバム。アコースティックからヘヴィ・ロックまで幅広い曲調でのペンタ・フレーズを聴くことができる。最後は、以前G3にも参加していたエリック・ジョンソンの『未来への扉』。心地良いサウンドに乗ったペンタ・フレーズが多数収められているぞ。

プロに学べ！

ペンタ名盤紹介

MSG
(マイケル・シェンカー・グループ)
『神(帰ってきたフライング・アロー)』プライド&グローリー
『プライド&グローリー』エリック・ジョンソン
『未来への扉』